

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Low-level laser therapy attenuates arthrogenic contracture induced by anterior cruciate ligament reconstruction surgery in rats	共著	2022年5月	Physiol Res. Online ahead of print	著書全体の概要：ラット前十字靭帯再建モデルを用い、低出力レーザー照射（LLLT）が術後の拘縮形成を抑制する効果を調べた。術後1, 2週の間節性拘縮はLLLTにより部分的に抑制され、関節包ではIL-1 $\beta$ 、COL1A1、COL3A1 mRNAの発現が抑制された。 （総ページ数：不明）（著書全体の著者名 A Kaneguchi, J Ozawa, K Minamimoto, K Yamaoka） 担当部分の概要：共同研究につき抽出不可能
2 (学術論文) Effects of hindlimb suspension on development of proximal and distal femur morphological abnormalities in growing rats 《筆頭論文》	共著	2022年4月	J Orthop Res. doi: 10.1016/j.knee.2022.03.011.	著書全体の概要：ラット後肢懸垂モデルを用い、成長期における免荷が大腿骨の形態形成に及ぼす影響を調べた。その結果、前捻角は増大、外側顆部の成長が抑制され、滑車角が外方に傾斜した。成長期の適度な運動は、骨形態形成異常を予防する可能性が示唆された。 （総ページ数：14頁） （著書全体の著者名 J Ozawa, A Kaneguchi, S Ezumi, T Maeno, J Iwazawa, K Minamimoto, A Ikeda） 担当部分の概要：共同研究につき抽出不可能
3 (学術論文) The Natural History of Medial Meniscal Tears in the ACL Deficient and ACL Reconstructed Rat Knee	共著	2021年5月	Cartilage. 13(2_suppl):1570S-1582S. doi: 10.1177/19476035211014588.	著書全体の概要：ラット前十字靭帯（ACL）損傷および再建モデルを用い、ACL損傷後の半月板変性の過程を評価した。損傷後4週で、半月板は肥大し、軟骨様組織が出現した。損傷後12週ではその部分は骨に置換され、半月板に断裂が生じた。しかし、ACL再建術を行うことにより、その一連の変性過程を部分的に抑制した。 （総ページ数：13頁） （著書全体の著者名 A Kaneguchi, J Ozawa, K Minamimoto, K Yamaoka） 担当部分の概要：共同研究につき抽出不可能
4 (学術論文) A rat model of hip joint contracture induced by mono-articular hip joint immobilization.	共著	2021年12月	Clin Biomech (Bristol, Avon). doi: 10.1016/j.clinbiomech.2021.105487.	著書全体の概要：ラット股関節創外固定モデルを開発した。寛骨と大腿骨を4週まで固定した結果、筋性拘縮が出現した。一方、他の関節と異なり、関節性拘縮は殆どみられず、関節包においても組織学的変化はみられなかった。 （総ページ数：14頁） （著書全体の著者名 Minamimoto K, Ozawa J, Kaneguchi A, Yamaoka K.） 担当部分の概要：共同研究につき抽出不可能
5 (学術論文) Formation process of joint contracture after anterior cruciate ligament reconstruction in rats	共著	2021年5月	J Orthop Res. 2021;39(5):1082-1092. doi: 10.1002/jor.24800. Epub 2020 Jul 22	著書全体の概要：ラット前十字靭帯再建モデルを用い、術後の拘縮形成を調べた。筋性・関節性拘縮は術後7日がピークとなり、その後は軽減したが56日にも残存した。また、関節包線維化も術後7日でピークとなり、その後は改善した。 （総ページ数：11頁） （著書全体の著者名 A Kaneguchi, J Ozawa, K Minamimoto, K Yamaoka） 担当部分の概要：共同研究につき抽出不可能